

令和元年度（2019年度）採択プログラム 中間評価調書

卓越大学院プログラム プログラムの基本情報 [公表。ただし、項目12、13については非公表]

機関名		千葉大学		整理番号	1903
1.	プログラム名称	革新医療創生CHIBA卓越大学院			
	英語名称	Innovative Medicine CHIBA Doctoral WISE Program			
	ホームページ (URL)	https://www.m.chiba-u.jp/dept/imec/			
2.	全体責任者 (学長)	<small>※ 共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学（連合大学院によるものは基幹大学）の学長名に下線を引いてください。</small> ふりがな (なかやま としのり) 氏名 (職名) 中山 俊憲 (千葉大学学長)			
3.	プログラム責任者	ふりがな (なかや はるあき) 氏名 (職名) 中谷 晴昭 (千葉大学・企画・人事担当理事・副学長)			
4.	プログラムコーディネーター	ふりがな (さいとう てついちろう) 氏名 (職名) 斎藤 哲一郎 (千葉大学医学研究院教授・副学長・大学院医学薬学府長)			
5.	設定する領域	最も重視する領域【必須】	②社会において多様な価値・システムを創造するような、文理融合領域、学際領域、新領域		
		関連する領域 (1)【任意】	③将来の産業構造の中核となり、経済発展に寄与するような新産業の創出に資する領域		
		関連する領域 (2)【任意】	①我が国が国際的な優位性と卓越性を示している研究分野		
		関連する領域 (3)【任意】	なし		
6.	主要区分	最も関連の深い区分 (大区分)	H		
		最も関連の深い区分 (中区分)	49	病理病態学、感染・免疫学およびその関連分野	
		最も関連の深い区分 (小区分)	49070	免疫学関連	
		次に関連の深い区分 (大区分)【任意】	H		
		次に関連の深い区分 (中区分)【任意】	47	薬学およびその関連分野	
		次に関連の深い区分 (小区分)【任意】	47050	環境および天然医薬資源学関連	
7.	授与する博士学位分野・名称	医学、薬学分野・博士 (医学) または博士 (薬学)			
8.	学生の所属する専攻等名 <small>(主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)</small>	千葉大学大学院医学薬学府 先端医学薬学専攻・医科学専攻・総合薬品科学専攻、大学院看護学研究科 看護学専攻、大学院融合理工学府 数学情報科学専攻・地球環境科学専攻・先進理化学専攻・創成工学専攻・基幹工学専攻、大学院園芸学研究科 環境園芸学専攻			
9.	連合大学院又は共同教育課程による実施の場合、その別 <small>※ 該当する場合には○を記入</small>	10.	本プログラムによる学位授与数 (年度当たり) の目標 <small>※ 補助期間最終年度の数字を記入してください。</small>		
	連合大学院		共同教育課程		15名
11. 連携先機関名 (他の大学、民間企業等と連携した取組の場合の機関名)					
カリフォルニア大学サンディエゴ校、南カリフォルニア大学、シャリテ医科大学、トロント大学、国立研究開発法人 理化学研究所、国立研究開発法人 産業技術総合研究所、国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構、武田薬品工業株式会社、日本マイクロソフト株式会社、シスメックス株式会社、日本イーライリリー株式会社、オリンパス株式会社、DNAチップ研究所、合同会社H.U.グループ中央研究所、ジーンフロンティア株式会社					

(【1903】機関名：千葉大学 プログラム名称：革新医療創生CHIBA卓越大学院)

[公表]

14. プログラム担当者一覧								
※「年齢」は公表しません。								
番号	氏名	フリガナ	年齢	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	フラット(割合)
1	(プログラム責任者) 中谷 晴昭	ナカヤ ハルキ		千葉大学・理事(企画・人事担当)・副学長	博士(医学)	薬理学	プログラムの実施・統括	1
2	(プログラムコーディネーター) 斎藤 哲一郎	サイトリ テツイチロウ		千葉大学大学院医学研究院・高次機能治療学 研究講座・教授・医学薬学府長・副学長	博士(理学)	神経科学	プログラムの企画・運営担当、 コーディネーター、革新治療学 クラスター長、神経科学担当	2
3	石橋 正己	イシハシ マサミ		千葉大学大学院薬学研究院・創薬科学講 座・教授副研究院長	博士(理学)	天然物化学、有機 化学	プログラムの企画・運営担当、 サブコーディネーター、革新医 療創薬クラスター長、天然物薬 学担当	2
4	清野 宏	キヨノ ヒロシ		千葉大学大学院医学研究院・高次機能治療 学研究講座・教授 Professor, Department of Medicine, University of California, San Diego	D. D. S., Ph. D	Mucosal Immunology	UC San Diego 教育統括、革新治 療学クラスター	1.5
5	森部 久二一	モリベ ケニカズ		千葉大学大学院薬学研究院・創薬科学講 座・教授・研究院長・学部長	博士(薬学)	薬剤学・製剤学	革新医療創薬学クラスター、製 剤工学担当	1
6	川上 英良	カワミ エリヨウ		千葉大学大学院医学研究院・イノベーション 治療学研究講座・教授	博士(医学)	予測・個別化医 療、システム医 学	革新医療Society5.0クラスター 長、自己点検副委員長、人工知 能医学担当	1
7	羽石 秀昭	ハネイシ ヒデアキ		千葉大学フロンティア工学センター・セ ンター長・教授	博士(工学)	医用画像工学	革新医療工学クラスター長、医 工画像解析担当	1
8	森 千里	モリ チカト		千葉大学大学院医学研究院・環境健康科学 講座・教授・予防医学センター長	博士(医学)	発生学、予防医 学	革新医療サステイナブル健康科 学クラスター長、予防医学担当	1
9	中島 裕史	ナカシマ ヒロシ		千葉大学大学院医学研究院・高次機能治療 学研究講座・教授	博士(医学)	アレルギー学、 臨床免疫学、内 科学	国際連携委員長、UC San Diego 連携教育主任、革新治療学クラ スター、臨床免疫学担当	2
10	木村 元子	キムラ モトコ		千葉大学大学院医学研究院・未来医療グ ローバル治療学研究講座・教授	博士(医学)	免疫学	UC San Diego連携教育主任、 革新治療学クラスター	1.5
11	三木 隆司	ミキ タカシ		千葉大学大学院医学研究院・高次機能治療 学研究講座・教授・副学部長	博士(医学)	糖尿病学	学生支援委員長、革新治療学 クラスター、代謝生理学担当	1.5
12	金田 篤志	カナダ アツシ		千葉大学大学院医学研究院・高次機能治療 学研究講座・教授・副研究院長	博士(医学)	がんエビゲノム	自己点検委員長、USC連携教育 主任、革新治療学クラ スター、分子腫瘍学担当	1.5
13	川島 博人	カワシマ ヒロト		千葉大学大学院薬学研究院・ゲノム創薬学 講座・教授	博士(薬学)	免疫学、生化学	学生支援副委員長、革新医療 創薬学クラスター、糖鎖免疫 学担当	1
14	武居 昌宏	タケイ マサヒロ		千葉大学大学院工学研究院・基幹工学専 攻・教授・副学長	博士(工学)	流体工学	革新治療学クラスター、生物 流体工学担当	1
15	横手 幸太郎	ヨコテ コウタロウ		千葉大学大学院医学研究院・高次機能治療 学研究講座・教授・副研究院長・附属病院 長	博士(医学)	内科学、老年医 学	革新治療学クラスター、内分 泌代謝・血液・老年内科学担 当	1
16	本橋 新一郎	モトハシ シンイチロウ		千葉大学大学院医学研究院・先端がん治療 学研究講座・教授	博士(医学)	腫瘍免疫学、呼 吸器外科学	カリキュラム委員長、トロント 大学連携教育主任、革新治 療学クラスター、免疫細胞医 学担当	1.5
17	松宮 護郎	マツミヤ コロウ		千葉大学大学院医学研究院・呼吸・循環治 療学研究講座・教授	博士(医学)	心臓血管外科学	革新治療学クラスター、心臓 血管外科学担当	1
18	眞鍋 一郎	マナベ イチロウ		千葉大学大学院医学研究院・イノベーション 治療学研究講座・教授	博士(医学)	疾患生物学、循 環器内科学	カリキュラム副委員長、革新 治療学クラスター、長寿医学 担当	1
19	加藤 直也	カトウ ナオヤ		千葉大学大学院医学研究院・消化器治療学 研究講座・教授・副研究院長	博士(医学)	消化器病学	革新治療学クラスター、消化 器内科学担当	1
20	浅沼 克彦	アサマ カツヒコ		千葉大学大学院医学研究院・消化器治療学 研究講座・教授	博士(医学)	腎臓内科学	革新治療学クラスター、腎臓 内科学担当	1
21	辻 比呂志	ツジ ヒロシ		国立研究開発法人量子科学技術研究開発機 構・QST病院・国際治療研究センター長(千 葉大学大学院医学研究院、客員教授)	博士(医学)	放射線腫瘍学	放医研連携教育主任、革新治 療学クラスター	1
22	伊藤 素行	イトウ モトキ		千葉大学大学院薬学研究院・ゲノム創薬学 講座・教授	博士(医学)	分子細胞生物学	キャリアパス委員長、革新医 療創薬クラスター、生物発生 創薬担当	1.5
23	田村 裕	タムラ ユウカ		千葉大学大学院医学研究院・高次機能治療 学研究講座・准教授	博士(医学)	生命情報科学	産学連携委員長、革新医療創 薬クラスター、生体内デリバ リー薬剤学担当	2
24	伊藤 晃成	イトウ コウセイ		千葉大学大学院薬学研究院・分子薬物治療 学講座・教授・副医学薬学府長	博士(薬学)	毒性学、薬物動 態学	学生選抜副委員長、革新医療創 薬クラスター、薬物動態学担 当	1
25	笹川 千尋	ササガワ チヒロ		一般財団法人 日本生物科学研究所 理事 長・千葉大学 真菌医学研究センター長	博士(医学)	微生物学、免疫 学	革新医療創薬クラスター、病原 微生物学担当	5

[公表]

1.4. プログラム担当者一覧（続き）

氏名	フリガナ	年齢	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	ポイント(割合)
26	石川 文彦	イシカワ フミコ	国立研究開発法人 理化学研究所・生命医科学研究センター・グループリーダー（千葉大学大学院医学研究院・客員教授）	博士(医学)	血液学	理研連携教育担当、革新医療創薬クラスター	1
27	劉 浩	リュウ ヒロシ	千葉大学大学院工学研究院・基幹工学専攻・教授	博士(工学)	バイオメカニクス	革新治療学クラスター、生物工学担当	1
28	俞 文偉	ユ フンイ	千葉大学フロンティア工学センター・教授	博士(工学・医学)	生体計測・モデリング、医用ロボティクス	革新医療工学クラスター、医工学担当	1
29	池原 譲	イケハラ ユズル	千葉大学大学院医学研究院・先端がん治療学研究講座・教授	博士(医学)	腫瘍病理学	キャリアパス副委員長、革新医療工学クラスター、プラズマ治療学担当	1
30	大鳥 精司	オトリ セイジ	千葉大学大学院医学研究院・脳・神経治療学研究講座・教授・副研究院長	博士(医学)	整形外科、脊椎外科	産学連携副委員長、革新医療工学クラスター、整形外科担当	2
31	山田 滋	ヤマタ シゲル	国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構・QST病院長	博士(医学)	放射線腫瘍学	放医研連携教育担当、革新医療工学クラスター	2
32	榎田 創	エノキタ シノブ	産業技術総合研究所・電子光技術研究部門・先進プラズマプロセスグループ・研究グループ長	博士(工学)	プラズマエレクトロニクス	産総研連携教育担当、革新医療工学クラスター	1
33	村田 武士	ムラタ タケシ	千葉大学大学院理学研究院・機能物質化学講座・教授	博士(工学)	構造生物学	革新医療生物科学クラスター、分子構造解析担当	1
34	幡野 雅彦	ハタノ マサヒコ	千葉大学大学院医学研究院・高次機能治療学研究講座・教授	博士(医学)	分子生物学、発生工学	学生選抜委員長、革新医療生物科学クラスター、胚発生医学担当	1.5
35	小原 収	オハラ オサム	公財かずさDNA研究所・ゲノム事業推進部・副所長（千葉大学未来医療教育研究機構・特任教授）	博士(理学)	分子生物学	革新医療生物科学クラスター、革新医療分子生物学担当	1
36	正木 治恵	マサキ ハルエ	千葉大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授	博士(保健学)	老年看護学	革新医療サステイナブル健康科学クラスター、高齢者看護教育担当	1
37	森 恵美	モリ エミ	千葉大学大学院看護学研究科・看護学専攻・教授・副理事	博士(医学)	リプロダクティブヘルス看護学	革新医療サステイナブル健康科学クラスター、産婦看護教育担当	1
38	後藤 英司	ゴトウ エイジ	千葉大学大学院園芸学研究科・環境園芸学専攻・教授	博士(農学)	植物環境工学	革新医療サステイナブル健康科学クラスター、革新医療環境学担当	1
39	米山 光俊	ヨネヤマ ミツシ	千葉大学真菌医学研究センター・感染免疫分野・教授	博士(理学)	ウイルス学、免疫学	国際連携副委員長、シャリヤ医科大学連携教育主任、革新医療創薬学クラスター、ウイルス制御学担当	1.5
40	長根(齋藤) 裕美	ナガネ サイウ ヒロミ	千葉大学大学院社会科学研究院・教授	博士(経済学)	医療経済学、イノベーション研究	革新医療Society 5.0クラスター、医療経済学担当	1
41	古関 明彦	コセキ アキラヒコ	国立研究開発法人 理化学研究所・生命医科学研究センター・副センター長（千葉大学大学院医学研究院・教授）	博士(医学)	免疫学	理研連携教育主任、革新医療Society 5.0クラスター	1
42	川瀬 貴之	カワセ タカユキ	千葉大学大学院社会科学研究院・グローバル関係融合研究センター・准教授	博士(法学)	法哲学	革新医療Society 5.0クラスター、生命倫理担当	2
43	岩村 千秋	イワムラ チカキ	千葉大学大学院医学研究院・未来医療グローバル治療学研究講座・特任講師	博士(医学)	免疫学	革新治療学クラスター、免疫学副担当、広報委員	10
44	成瀬 雅衣	ナルセ マサエ	千葉大学大学院医学研究院・高次機能治療学研究講座・特任講師	博士(理学)	神経科学	革新治療学クラスター、神経科学副担当、学生選抜委員	10
45	関 信男	セキ ノブオ	シスメックス株式会社・技術戦略本部R&D戦略部・特任研究員（千葉大学大学院医学研究院・客員教授）	博士(理学)	免疫学、診断薬開発	革新治療学クラスター/CITICO教育 治療学主任	1
46	小見 和也	オミ カズヤ	合同会社H.U.グループ中央研究所・社長兼所長（千葉大学大学院医学研究院・客員教授）	博士(保健学)	臨床検査・ヘルスケア領域での研究企画・管理、技術経営	革新治療学クラスター/CITICO教育 治療学担当	1
47	一川 隆史	イチカワ タシ	武田薬品工業株式会社リサーチ ニューロサイエンス創薬ユニット・ドラッグディスカバリーケミストリー研究所・所長（千葉大学大学院医学研究院・客員教授）	博士(薬学)	メデイシナルケミストリー	革新医療創薬クラスター/CITICO教育 創薬学主任	1
48	河野 剛志	コノ タケシ	ペーリンガーインゲルハイムジャパン(株)・事業開発&ライセンスシグナチャー・マネージャー（千葉大学大学院医学研究院・客員教授）	博士(医学)	分子生物学、免疫学	革新医療創薬クラスター/CITICO教育 創薬学担当	1
49	榎本 宏之	エノモト ヒロユキ	日本イーライリリー(株)・研究開発本部バイオ医薬品本部・筋骨格疼痛領域医学部長（千葉大学大学院医学研究院・客員教授）	博士(医学)	筋骨格疾患、慢性疼痛、臨床医薬品開発	革新医療創薬クラスター/CITICO教育 創薬学担当	1
50	藤沼 賢	フジノ マサケン	オリンパス株式会社・イノベーション推進部・課長代理（千葉大学大学院医学研究院・協力研究員）	修士(物理工学)	医療機器の技術開発	革新医療工学クラスター/CITICO教育 医療工学主任	1
51	的場 亮	マツバ リョウ	株式会社DNAチップ研究所・代表取締役社長（千葉大学大学院医学研究院・客員教授）	博士(理学)	ゲノム生物学	革新医療工学クラスター/CITICO教育 医療工学担当	1.5

進捗状況の概要【2ページ以内】

進捗状況の概要として、①特筆すべき成果のあった事項、②計画通り進んでいる事項、③改善が必要な事項、④プログラムとしての今後の見通しを簡潔に記載してください。

① 特筆すべき成果のあった事項**【学長主導による大学院の教育と研究体制の改革】**

本学は、学長主導で次世代人材育成の司令塔として「未来医療教育研究機構」と「自然科学系教育研究機構」、「人文社会科学系教育研究機構」を設置し、分野や部局を超え新分野開拓と融合研究を展開すべく大学院改革を進め、大学院の3学府（医学薬学府、融合理工学府、人文公共学府）を創設してきた。プログラムの採択時にコーディネーターだった中山が令和3年4月に学長に就任し、プログラムの「クラスター制 CHIBA 教育システム」等の成果を基に、学長のリーダーシップの下で「世界に冠たる千葉大学へ」を大学ビジョンに掲げ、プログラムの理念や教育体制等を大学全体へ敷衍させ、全学レベルで大学院の教育と研究体制の改革を強力に推進している。具体的には、博士課程11専攻の全てで、分野や部局の壁、文系と理系の枠を越えて「文系・理系統融合ローテーション演習」を開始するとともに、異なる2分野の教員が大学院生を指導する「複数指導教員制」をとり、大学院生がダブルメジャー相当の力を有して修了できる新しい大学院システムを構築した。

また、本プログラムの特長である学生の主体的な取組を全学に拡大し、広く産官学のリーダーを招聘する「イノベーション創発セミナー」、国内外の8キャンパスをつなぐ「オンライン学生フォーラム」、学生自ら国内外の研修先を探して実施する「自主発展型研修」を開始し、経済的支援を行っている。さらに、本学の教育の中核である「国際未来教育基幹」に加え、令和4年度に「国際高等研究基幹」と「全方位イノベーション創発センター」を新設し、修了生が活躍できる場として特任助教ポジションを大学独自予算で既に確保している。大学院生を若手研究者と位置付け、修士課程の学生を支援する「若手研究者スタート支援」も令和4年度から開始し、大学全体で修士から博士まで一貫した大学院改革を推進している。

プログラムの目的である世界を先導する革新医療創生のイノベーター育成に関して、令和3年に「コロナワクチンセンター」を附属病院に設置し mRNA ワクチンの効力等の分析を開始するとともに、令和4年に塩野義製薬と共同で「ヒト粘膜ワクチン学部門」を新設し産学連携で新規ワクチンの開発を進めている。本プログラムの中軸である先端医学薬学専攻に、新たにワクチン学専攻と感染症学専攻の設置を計画するとともに、近年、志望者が急増している本専攻の定員を増員すべく準備中である。令和4年度に竣工予定の「災害治療学研究所」では、医学や薬学、看護学の医療系と、食・緑・ライフサポート等の園芸学や政治学、工学等の視点を融合させた新しい分野横断型の災害治療学研究と人材育成を連結させた大学院教育・研究を実践できる体制を整備している。

【プログラム生主体の多岐にわたる活動】

プログラム生の主体的な活動は多く、大学が整備した専用の特別研修室で分野を超えた学生同士で意見交換し、「iMeC-WISE リトリート」や「革新医療創生実習」等を自ら企画・実施している。令和4年に開催した第1回リトリートでは、学生が作ったビジネスプランを英語で発表し学生グループ間で競い合い、3企業のプログラム担当者から起業に向け様々な助言を受けるとともに、プログラム生の意欲と能力が高く評価されている。さらに、プログラム生の2名を中心に事業案を作り、令和3年、学生サポートセンター主催の第19回学生ビジネスプランコンテストで優秀賞、令和4年には千葉銀行と横浜銀行主催のちばぎん・はまぎん学生ビジコン2021で大賞、本学の学術研究・イノベーション推進機構が主催する第19回なのはなコンペ2021で最優秀賞、教員も競う第1回なのはなコンペ(アドバンスコース)2021で最優秀賞を受賞するなどの実績を挙げ、起業に向け準備している。大阪大学主催の大学院教育改革フォーラム2021でも3名の学生が最優秀賞や優秀賞を受賞している。

必修科目の「卓越教養特論」は、プログラム生が講演者の選定から交渉と日程調整を行い、元文化庁長官やノーベル賞受賞者をはじめ、毎年、15人の多様なリーダーが講演している。プログラム生が自ら企画する「革新医療創生実習」では、シスメックス社やNejiLaw社等の企業においてインターンシップを実施している。

俯瞰力や独創力、実践力を養う「革新医療創生(ローテーション)演習」を実施後、2つの分野での研究を行う中で、分野横断的な融合・共同研究を始めた学生も多い。コロナ禍にも関わらず、渡仏シラウエ・ランジュバン研究所で共同実験を始めた学生、連携機関の武田薬品工業に加え、アステラス製薬や小野薬品工業、第一三共 RD ノバーレと共同研究を開始した学生もおり、学生主体のプログラム方針が早くも結実している。

② 計画通り進んでいる事項

【プログラムの充実した教育体制の確立】

本学の多様な分野と部局の教員 38 名に加え、理化学研究所（理研）やカリフォルニア大学サンディエゴ校（UC San Diego）等の 15 連携先機関を含め、計 64 名のプログラム担当者が参画し、緊密な連携の下で国や機関等の枠を越えてきめ細かに学生を指導する体制を確立した。

クラスター制 CHIBA 教育システムにより、部局や分野等を超えプログラム生が複数のクラスターで学修し、主体的に自ら切磋琢磨することで、複数の分野で主専攻とサブ専攻を修める体制も確立している。革新医療創生演習は本学の多くの部局とともに、理研等の連携先機関でも実施している。

19 海外研究機関の 34 名の客員教員からなる本学独自のグローバル教育体制 CITIP（Chiba Innovative Therapeutics International Program）と、国内外企業 23 社や 4 政府関連機関の 34 名の客員教員で組織される産官学横断教育体制 CITICO（Chiba Innovative Therapeutics Industry Consortium）も構築し、予防医学を中心とした産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム（OPERA）コンソーシアム、治療学に特化した日本初の治療学人工知能（AI）研究センターとも連携し、グローバルと産官学横断の両レベルで新しい大学院教育を開始している。

プログラム生の選抜、イノベーション力や英語力等を評価する 3 段階の進級試験、外国人教員が審査員に加わり全審査プロセスを英語で実施する世界標準の学位審査等の体制も整備済みである。これまでに進級試験を受けたプログラム生の全員が合格し進級している。

【学生へのきめ細かな指導・支援体制】

革新医療創生演習を終了した全学生に、分野が異なる 3 人の指導教授がつく「トリプル指導教授制」を実施しており、多面的に学生を指導する体制が確立している。また、プログラム生は毎年度末に、俯瞰力や独創力、高度な専門性、レジリエンス等での成長度や、学修とキャリア形成上の課題等をプログラム独自の「学生ポートフォリオ」に記入し提出しており、学生が自身の成長を的確に把握するとともに、指導教授がきめ細かに指導する上で有効に機能している。学生ポートフォリオの分析から、全学生の年毎の成長が明確に示されている。

プログラム生が学修研究に専念できるように、年 240 万円の教育研究支援経費、もしくはエフォートに応じて博士課程学生は年 240 万円、修士課程学生は年 138 万円を上限とするリサーチアシスタントが支給される体制を構築しており、申請した学生全員 32 名が年に 40 万円～240 万円の支援を受けている。野心的な試みを評価する自主研究システムも開始し、32 名の学生に年に 10 万円～60 万円の特別研究費が支給されている。

③ 改善が必要な事項

【学生の選抜】

プログラム生の選抜倍率は、博士課程の編入生で 10 倍以上と極めて高いが、修士課程の入学者では 2 倍以下であり、倍率を考慮した選抜を実施している。博士課程の先端医学薬学専攻では、近年、志願者数が入学定員を大幅に超え、留学生や企業の社員の入学が困難な状況となっている。企業等からの優秀な人材を確保すべく、入学定員の増員を準備中である。

【本学の人文系卓越大学院プログラムとの連携】

本学の「アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム」との間で、卓越教養特論の講演者の選定や iMeC-WISE リトリート参加など学生レベルでプログラムを横断した連携の取組が始まりつつあるが、更なる連携を推進すべく学長主導の企画を準備している。

④ プログラムとしての今後の見通し

【サステナブル大学院体制の推進】

プログラム関連部局の外部資金は大幅に増額しており、間接経費等に関する本学規則の改定により、プログラムを自走させる資金力を有する。独自の産学連携システムの「千葉国際治療学産学連携イニシアチブ」を利用し、企業資金で大学院教育を実施する体制も整備済みであり、更にプログラムを発展させることが可能である。

【全学レベルで高度な「知のプロフェッショナル」を養成】

産官学の多様なセクターで活躍する卓越した人材を本プログラムから輩出するとともに、学生全員の留学を必須とする本学の「国際未来教育基幹」を中心とした取組に加え、新設した国際高等研究基幹と全方位イノベーション創発センターを核として、全学の全ての研究分野で高度な「知のプロフェッショナル」を養成する。